

指定管理者評価シート

一 管理運営の状況

1	施設名	仙台市あおぞらホーム
2	指定管理者	社会福祉法人 なのはな会
3	指定期間	平成30年4月1日から平成33年3月31日まで（3年間）
4	施設の利用状況	《利用者数》 ・平成29年度 4,551人（昨年度比110%） ・平成28年度 4,131人（昨年度比 78%） ・平成27年度 5,246人（昨年度比 84%）
		《事業》 ・児童発達支援事業
5	収支の状況	《費用》 ・指定管理者に支払った費用 35,293千円（37,452千円） ・その他市が負担した費用 626千円（ 432千円） （ ）は前年度決算額 《収入》 ・使用料収入 34,118千円（22,924千円） ・その他収入 0千円（ 0千円）
		《実施状況》 ・平成30年2月、指定管理者の協力のもと障害者支援課で利用者アンケートを実施し、33人/34人中（97.0%）の回答を得た。 ・施設の利用に関し、大変満足又は満足が89.1%、不満との回答は1.2%だった。
6	利用者の声	《実施状況》 ・平成30年2月、指定管理者の協力のもと障害者支援課で利用者アンケートを実施し、33人/34人中（97.0%）の回答を得た。 ・施設の利用に関し、大変満足又は満足が89.1%、不満との回答は1.2%だった。

二 管理運営に係る評価

(モニタリングシートの結果によって評価)

評価分野		所見	評価
I	総則	施設の設置目的に沿った事業計画が作成されており、事業者・職員も設置目的を十分理解のうえ施設運営に当たっている。 交流保育や保護者を対象とした研修会の開催など、親子共に成長できるような利用者本位の施設運営を図っている。 職員全体での情報共有に関して、不十分な点はあったが、障害児福祉や発達支援に関する最新知識の習得に努めている。	A
II	施設の運営管理体制	施設の運営管理については、事業計画に基づいた運営がなされている。 経理書類の作成及び通帳印鑑の管理は適正に行われている。	S
III	施設・設備の維持管理	廊下に空調設備がなく、冬は室内との寒暖の差が激しいため、保護者より不安の声があがっているものの、清掃・衛生管理・施設の保守点検は適切に行われており、利用者が快適に利用できる環境整備に努めている。	S
IV	サービスの質の向上	利用者が利用しやすい環境を整えるため、職員研修を行い、相談に適切に対応できる体制を整えている。 サービス水準を確保するため、職員会議・研修等により人材育成を図っている。 利用者の支援に支障があるため名札は着用していないが、利用者等に分かるように職員の写真と氏名を廊下に掲示している。	A
V	施設固有の基準	利用者個々の発達に寄り添った個別支援計画を策定している。 指定児童発達支援事業所としての基準を遵守しながら利用者処遇の向上に努めている。	S

三 その他特に評価すべき優れた取組み

(指定管理者の優れた取組みを評価する 加点要素)

評価すべき取組み		取組み状況
1		
2		
3		
加点評価		—

四 評価総括

《指定管理者（社会福祉法人なのはな会）による自己評価》
<p>在籍児36名で1クラス10～13名で3クラス編成でおこなった。年齢は、2～4歳で知的障害や発達障害の疑いなど障害名は確定していない発達に心配のある子どもが通ってきている。毎日通園・母子分離保育を行い発達支援をおこなってきた。①生活リズムの確立 ②大人との関わりを土台に遊びを広げ主体的に生活する ③基本的な生活習慣の確立の3つを柱に療育支援をすすめてきた。また、一人一人に合わせた個別支援計画に基づき支援をおこなった。あおぞらホームの子どもたちは、地域の保育所や幼稚園へ進路を考えることが多いため、小集団でのひとりに合った発達支援が大切になっている。職員体制は、保育士、児童指導員の他に医師、看護師、作業療法士などの他職種が連携をし療育支援をおこなってきた。</p> <p>家族支援では、個々の家族に合った支援を行っている。必要に応じて預かり保育、保護者面談・保護者勉強会などおこなってきた。</p> <p>29年度は、21名が卒園をむかえた。(保育所10名・幼稚園7名・なかよし学園2名・その他2名)今後も関係機関などと連携をし卒園児支援を継続していきたい。</p>

《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
<p>平成29年度の管理運営については、協定書及び仕様書に従って適切・良好に行われた。</p> <p>児童の発達に合わせた丁寧な支援を行っているほか、進路指導、保護者勉強会の開催など、児童だけではなく家族を含めた利用者処遇の向上に努めている。</p>	S

◎ 評価担当課（施設所管課）：健康福祉局障害福祉部障害者支援課